

令和 2 年度ラドネット研究会

日時：令和 3 年 1 月 30 日（土） 13:00～16:30

場所：ZOOM によるオンライン開催

プログラム

13:00 開会挨拶 山野 直樹 理事長

13:00～14:00 (仮題) 水晶体の被曝評価に関する話題  
講師 横山 須美 氏 (学校法人藤田学園 藤田医科大学)

14:00～15:00 10 MeV を超える電子線リニアックの遮蔽に関する話題  
講師 大石 晃嗣 氏 (株)日本環境調査研究所)

発表要旨：医療用リニアック施設 (18MeV) の遮蔽設計を従来の方法で実施し、許可を受けた後の施設検査で、評価点において計算値の約 100 倍の線量が観測された。その原因は遮蔽壁を構成する鉄板から発生する光中性子であったので、検討結果の概要について説明する。また、検討結果を受けて北大 45 MeV ライナックを利用して、計算コードの検証を目的とした遮蔽ベンチマーク実験を行ったので、併せて報告する。

15:00～16:00 (仮題) 新型遮蔽材 RASHIX の紹介  
講師 森 宏行 氏 (三石耐火煉瓦株)

発表要旨：福島第一原発事故を契機に放射線遮蔽れんが RASHIX が生まれた。時事問題をはじめ何でも語り合うオフレコ「サロン」からアイデアをいただいて開発に着手した。直ぐに出来ると軽く考えていたが四苦八苦し、なんとか試作は出来たものの大量製造が難しかった。出来たものは酸化鉄  $Fe_2O_3$  99%のれんがで、 $\gamma$ 線、X線を遮蔽できる。長期にわたって屋外での剥き出し、1000℃程度まで使用可能である。狭いところなど従来では施工困難なところでも施工可能で、無害。施工後はれんがの重厚さがあり建築方面で以外な評価があり、病院、原発周辺の避難所などで使用実績がある。

16:00～16:30 高レベル放射性廃棄物地層処分に係る大学生との対話活動  
講師 山野 直樹 理事長

発表要旨：ラドネットの事業として、日本原子力文化財団の「地層処分事業推進のための学習の機会提供事業」の支援を受け、令和 2 年度も将来のオピニオンリーダーとなる大学生・大学院生を主な対象とした対話活動を実施した。高レベル放射性廃棄物地層処分について、技術的安全性・成立性から社会的課題に至るまでの広範なテーマに関するワークショップと見学会を組み合わせで行った。3 年間の活動内容について紹介する。

16:30 閉会挨拶 坂本 幸夫 副理事長